Member

Associate	Professor	伊藤香織
Adjunct	Professor	中畑昌之
Assistant	Professor	丹羽由佳理

M2	M1	B4
荒井隆太郎	大矢遼太	飯田遼平
池田俊介	川上萩子	小田健人
上原慧史	高橋真有	笠原遼太
後藤洋子	竹中翔	風間仁嗣
萩原豪	西村尚宏	木村佐紀
藤井田仁	平野淳也	草谷悠介
星洸祐	三縞宏徳	栗田純吾
堀口裕	矢萩智	神田夏子
	吉田恵子	權田貴之
	渡邊諒	中村有花
		西山貴史
		宮本沙生
		吉村元宏

fab C. vol.8
2014 年 1 月 1 日　発行

□編集
神田夏子　西山貴史

□発行
伊藤香織都市計画研究室
東京理科大学理工学部建築学科
〒278-8510
千葉県野田市山崎 2641
TEL　04-7123-4785（研究室直通）
URL　http://www.rs.noda.tus.ac.jp/~i-lab/

□印刷・製本
祥美印刷株式会社

fabC.

vol.8

CONTENTS

02 Prize-winning Work !

03-06 UMN × TUS Joint Design Studio

07-08 Shibitachi Project

09-10 Other Projects

11-13 Picnic Interview

14 Short Interview

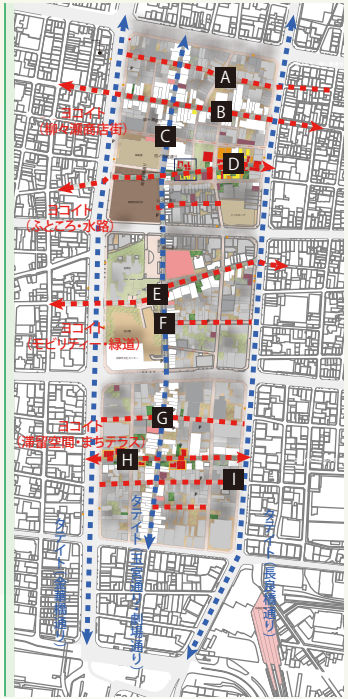
15-16 Individual Activities

17-18 Thesis & Design

fab C. は東京理科大学理工学部建築学科
伊藤香織研究室が発行するフリーペーパーです。
研究室の活動を中心に、都市の研究とデザインに関する
情報やメッセージを発信する媒体を目指しています。

Prize-winning Design for Gifu City

岐阜市中心市街地「柳ケ瀬・玉宮通り周辺地区」を対象とした第 15 回まちの活性化・都市デザイン競技 (まちづくり月間全国的行事実行委員会・財団法人都市づくりパブリックデザインセンター主催) で、伊藤研究室の作品「タテイト × ヨコイト：タテイトとヨコイトが織りなす繊維の街」が国土交通大臣賞 (最優秀賞) を受賞しました。



タテイト × ヨコイト

南北に延びる 3 本の主要動線を回遊性を高めるタテイト、地勢・歴史から見いだせる東西方向の細かい道をゆっくりと歩き留まることのできる居心地の良いヨコイトと位置づけ、タテ・ヨコの道を中心に街を織りなす空間を提案しました。審査員からは、対象地の広域的な位置づけや人の流れ・地域の歴史地勢をひもといて街の骨格として提案した点、都市デザインの正道をゆく道づくりに出発点をおいた点、道に沿う建築や広場を一体的に考え公共空間として総合的に解こうとするスタンスなどに対して評価をいただきました。

伊藤香織　萩原豪
丹羽由佳理　堀口裕
伊藤槙吾　大谷唯子
荒井隆太郎　高橋真有
池田俊介　吉田恵子
上原慧史　渡邊諒

授賞式

UMN x TUS Joint Design Studio

2013 年 5 月 30 日〜6 月 8 日、東京理科大学伊藤研究室とミネソタ大学建築学部の Brownell スタジオが合同で、“Reclaiming Lost Tokyo” をテーマにリサーチとデザインの合同ワークショップを行いました。

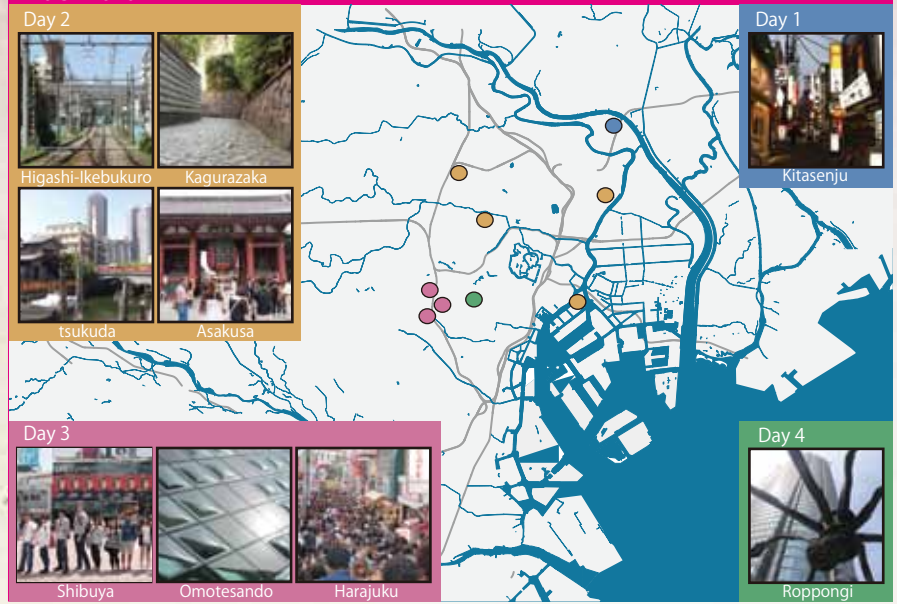
Reclaiming Lost Tokyo

ワークショップは、ミネソタ大学 Brownell 助教授と東京理科大学伊藤准教授の指導の下行われ、伊藤研究室を中心に東京理科大学の学生 16 人とミネソタ大学の学生 7 人が参加しました。ワークショップの前半は、“ハイパーコンテンポラリー” な街と過去の面影を残す街という東京の二面性を知るためのまちあるきを全員でしました。後半は、日米混成のグループに分かれ、それぞれ一つの街を対象に（神楽坂、北千住、佃、東池袋）、その街の魅力と危機を分析した上で、魅力を保全し危機を回避するためのデザイン提案を行いました。最終講評会では、建築家で東京理科大学非常勤講師の今村創平氏をゲスト・クリティークに迎えました。期間中に学内で、Blaine Brownell 助教授の講演 “Augmented Matter” 及び同行の Marc Swackhamer 准教授の講演 “HouMinn Practice” も行われ、多くの学生が新たな技術とデザインの融合に関する講演に耳を傾けました。

Blaine Brownell
建築家、ミネソタ大学建築学部助教授
新素材のデザイン研究、及び、特に技術・サステイナビリティ・日本の建築に着目した設計活動をしている。主著に「Transmaterial 1~3」など。

Marc Swackhamer
ミネソタ大学建築学部准教授
デジタルファブリケーション、デジタルなデザイン方法、生物・生体からヒントを受けたデザインにかかわる設計と研究をする。

Machi-aruki



—What did you find in the workshop ?

Tiffany Chen

“Each group investigated a unique neighborhood of Tokyo to understand the history and culture of it. Each neighborfood is distinct and provoked different design proposals. Tokyo is like a quit made of many patchworks of different beautiful and unique neighborfoods.”

—How did you like the streets in Tokyo ?

Joe Carter

“ When I walked around Tokyo I felt like part of the city. There was an energy that made everything more exciting. I loved the movement and activity. ”

石床 ISHI YUKA　神楽坂

Reenie McCormick
大矢遼太
髙橋真有
權田貴之
西山貴史

歴史やテクスチャを肌で感じるために川床のような場所をデザインする。街区内にある公園や格式高い料亭が軒を連ねる細い路地にて、高さ 40cm 程度のテーブルを点在させ、料亭から軽食等を低コストで提供してもらう。料亭の味を気軽に楽しめる一方で、石畳や基礎部分といった低いレベルでのテクスチャを五感で楽しめることが出来る。

Community Catalyst　北千住

Joe Carter
Tiffany Chen
荒井隆太郎
吉田恵子
栗田純吾
宮本沙生

対象地である柳原は、かつて堀により囲まれた特殊な地域であった。対象エリアでは全ての道を路地のような落ち着きのある空間にするために、駐車場への柳の木の植樹と公園化、古き良き木電気の利用、荒川河川敷でのアクティビティのための駐車場の整備などを一体的に提案した。

[Before]　[After]

船着場　佃

Kurt Streich
MinSeo Kim
池田俊介
川上萩子
三縞宏徳
熊倉卓

かつて船着場は住民の生活の中心にあったが、近年の開発で本来の機能は失われ、今では景観の一部に過ぎない。ここに新たな形の船着場を提案した。舟は移動式店舗に、時には舞台・ステージとして使われ、それに応じて船着場のアクティビティが変化していく。再びこの水路を中心にコミュニティが形成されることを期待する。

INTERSECTION　東池袋

Elizabeth Weitz
Stacey Mai
西村尚宏
矢萩智
渡邊諒
木崎美帆

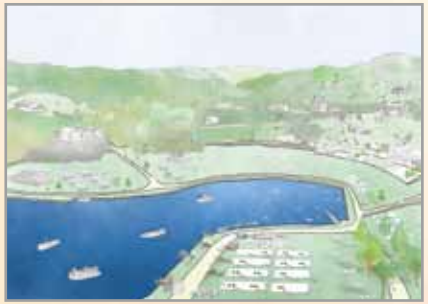
東池袋は、歩行者と自転車が行き交う、ゆったりとした時間が流れるまちである。まちの表情を彩る、絵の具のパレットのような創造的なマテリアルや、印象的なファサードは、時代が移ろいゆくなか、今も変わらずそこにある。そこで、これらの要素をもとに、この近隣を快適かつより親しみをもてるよう、住民の行為に寄り添い、または促すようなファサードや街路空間を提案する。

Shibitachi Project

東日本大震災で津波被害を受けた宮城県気仙沼市の唐桑半島にある鮪立（しびたち）集落での復興サポート・港まちづくりを、東京大学生産技術研究所太田研究室、芝浦工業大学デザイン工学部桑田研究室などと共に続けてきました。

鮪立では、高さ 9.9m の防潮堤計画が提示された 2012 年 7 月以降、防潮堤が復興まちづくりの最大の論点となっています。住民からは、安全性を求める声がある一方で、漁業・養殖への影響、沿岸作業者の避難の妨げ、貴重な平場の喪失、歴史的景観の喪失、将来のメインテナンス負担などの悪影響を危惧する声が上がっています。伊藤研究室では、防潮堤の景観シミュレーションも行いました。2013 年 2 月に行われた全住民アンケートでは、67% が防潮堤の必要性を認めたものの、9.9m という高さの支持は 35% しかなく、合意の難しさが如実に表れました。県・市が 9.9m 防潮堤以外の選択肢を認めない一方で住民の合意を求めており、鮪立の復興は膠着状態に陥ることとなりました。
この状況の打開のため、伊藤研究室を含む 3 大学と住民によるまちづくり委員会は、異なる選択肢の一つとして、津波防潮堤をつくらないかたちで漁撈と減災の共存を試みた「鮪立港まちづくり計画案 Ver.2」を 2013 年 5 月に作成し、その内容について住民の方々とワークショップを行いました。2013 年秋には、これまでの活動の内容をまとめた報告書「漁業集落から見た復興の課題」を発行しました。

TP9.9m津波防潮堤の代わりにTP5mの道路を新設。港から楽に集落に上がることができる。道の周りに集落の人々が集まる場がつくられる。



高潮防波堤を兼ねた道路は海岸線から70m程離れており、港を囲む平場は、漁業、観光、大漁唄い込み等の地域文化伝承のステージとなる。

←鮪立港まちづくり計画案 Ver.2
（漁撈と減災の共存案）の模型

作業性の高い水産施設ゾーンを奥行きを持って計画できると共に、眺望・景観を守ることができる。

『漁業集落から見た復興の課題』→

M2 荒井隆太郎

提案では、9.9m の防潮堤をつくらずに高潮防波堤の機能を有するなだらかな盛り土をすることで、これまでの人と海との関係を保つことを考えました。この盛り土の上では商店や集会場などのこれまであった機能に加えて、観光施設や広場を設け、人が集まる場所を設けました。これらの提案を絵にして住民の方々と共有し、目指すべき未来にむけて進んでいけたらと考えています。

B4 小田健人

地元の方々と直接会話することで、鮪立の歴史や文化、港がみんなの拠り所でありコミュニティの中心の場所であったこと、漁業体験やカヌー体験をかねた観光エリアを設けたいという意見などを伺うことができました。地元の方々と対話し現場に適した提案をすることの重要性を学びました。

Other Projects

筑後プロジェクト

「九州ちくご元気計画」のご協力の下、伊藤研究室は福岡県筑後地域での活動を行っています。卒業研究や修士研究などの研究調査、フィールドワークと展示など、いくつかの活動にわたっています。

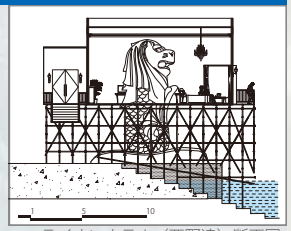
九州ちくご元気計画は、デザインを積極的に導入して、地域の雇用創出に結びつくための「元気」づくりを行っています。商品開発・起業支援を中心とした第一期に続いて始まった第二期では、観光がテーマになっており、そのパイロットプロジェクトのために伊藤研究室が数回にわたって筑後地域を訪れました。

卒業研究に取り組んでいるグループは、八女福島の重要伝統的建造物群保存地区で新規開業した店舗の調査を通して、地域資源を活かしたまちづくりと地域の強み・弱みに関する研究を行っています。

2013年8月には、研究室の有志7人が約7日間筑後地域に滞在し、フィールドワークと展示を行いました。各自が筑後地域内の様々な場所の魅力を見出しながら、建築、モノ、自然、生命というテーマに沿って写真を撮影し、最終日に九州芸文館にて写真展「ぼくがみたちくご展」を開催しました。関東に住む学生たちの目を通して、地元の方や来訪者の方に、筑後の魅力を再発見していただくのがねらいです。当日は約80人の来場者があり、好評を得るとともに、来場者との対話を通して、自分たちにも多くの新たな発見がありました。写真展は、西日本新聞、日刊大牟田新聞などにも取り上げていただきました。

コンパクト建築設計資料集成・都市再生

3年以上に渡り伊藤研究室も編集に携わってきた『コンパクト建築設計資料集成 都市再生』（日本建築学会編、丸善出版刊）が、2014年1月に刊行されます。伊藤研究室は、「出来事と一時的空間」「地域再生」「創造都市」を担当しました。これまでにない新しいテーマの資料集成で、先進的でユニークな事例を多く見出し、調査し、図面化しました。今後の都市再生に役立つ1冊になるはずです。



マーライオンホテル（西野達）断面図

福井まちの活性化・都市デザイン競技

研究室の有志で、福井城址周辺地区を対象としたデザイン競技に挑戦しています。対象地区は、福井市の中心市街地にあって、業務集積エリアと歴史が感じられる城址・中央公園エリアが共存しています。昨年度の先輩たちの提案に負けないよう、魅力あふれる都市・空間デザインの提案をしていきたいです。

時間で、都市をとらえよ～まちあるき～

新4年生向けに、都市を体験するということと、研究室の雰囲気を知ってもらうために、毎年3月に催している「まちあるき」。今年は「時間で、都市をとらえよ」というテーマで銀座・築地を歩きました。明治から戦前、戦後にかけての古い写真を片手に、当時の痕跡を辿ってゆくまちあるきは、表層からは見えてこない都市の積み重ねを捉えるものとなりました。

Picnic Interview

Picnic Data 2013.11.24 (SUN)
Time : 12:00-15:00
Place : アイ・ガーデン

Guest :
初見 学　教授
Manabu Hatsumi

山口県生まれ / 東京大学助手を経て東京理科大学理工学部建築学講師 / 現在同学科教授 / 研究分野：住居計画・建築計画、工学博士

ピクニック・インタビューでは、毎回ゲストを招き一緒に食事を楽しみながら、くつろいだ雰囲気の中でお話を伺っています。今回は、伊勢丹新宿店屋上にあるアイ・ガーデンに、今年度限りで東京理科大学理工学部建築学科の教授を退官される初見学先生をお招きしました。

理科大へは建築計画を教えるためにいらしたのですか？

住居計画というよりは建築計画を教えて下さいとお願いされて理科大に来たけど、当時は理科大の設計教育があまり良くなかった。良い学生がいるのに教育の仕方が良くなくて、もったいないと感じた。学生が設計課題を提出すると先生は採点して返すだけで、学生との呼応がなかった。本来なら設計は講評会があって自分の意見を発表して、それに対し教授がコメントをするものだから。それで来た当時は相当燃えたね。学生の話をしっかりと聞いて、それに対して意見する。そういう風にしないといけないと思った。

今まで訪れた中で好きな都市はありますか？

どこもそれなりに面白い。その中でも若い頃に行った街で、ヨーロッパのロンドンやパリはやっぱり良いなと思った。初めて訪れた街の印象は強かった。若いうちに色々と見た方が良いよ。自分と育ってきた環境と違うような状況の中で普通に暮らしている人々がいて、そういうのを見ているだけで嬉しくなる。ヨーロッパを見て周った時も中国の少数民族を訪れた時も、そういうのを感じられて嬉しかった。一度行った所をもう一度訪れて、どうなったのかを見てみたい。好きな国は日本です。日本には良いところが沢山ある。僕が 40~50 代の頃に海外の調査をずっとしていたのは、日本を見直すためでもある。日本にずっといると日本の良さって分からない。中国、東南アジアの少数民族、ヨーロッパとか色々見ていくと日本の良さが分かってくる。そういう意味で日本の良い所を見直すために海外に行くことはとても良いことだと思う。

2020 年東京五輪開催について、どう思われますか？

東京オリンピック開催については賛成ではないです。これから発展しそうな国でインフラ整備するために開催するのが良いと思うから、日本での開催は違うと思う。本来ならお金はオリンピックに使うのではなくて、被災地の復興予算などに補填すべきだと思う。また新国立競技場については、もともとプログラムが間違っている。要するにスポーツ振興協会の発注先がみんなの要求を聞いて、それ全てを実現するとこうなります、っていう感じでプログラムを設定して、コンペして。結局全部盛り込んでどんどん大きくなってしまったけど、今後あんな大きな場所を使う機会ってそんなに無い。東京都のみんなの税金で維持していくことを考えて規模を算定しないといけないのに、要求だけでつくったから、プログラムの見直しは必要。現実性がないし、維持管理することを見込めるような収入も無い。

都心部における超高層マンションについて、どうお考えですか？

今、都心回帰で高層系の集合住宅がどんどん出来てきているけど、これは良くない。それは周りとの関係を遮断して住めていけますよっていう作りになっていて、住んでいる人がどんどん孤立してしまう。本当は人が集まって住むっていうことは住民同士が助け合ったり、気を遣ってあげたりできる環境であるべきなのに、それが出来ない作りなのは問題で、そういうのが住宅だという考え自体がおかしい。超高層っていうのはどんどん人間関係が無くなる世界を作っている。言わば孤独死の塔、墓石を作っているようなものだと思う。欧米などの都心では超高層に住む人が大勢いるけど、日常的には閉じていても、コミュニティを補完するためにパーティーがあったり、ソフトの装置があったりする。日本にはこういったハードとソフトの関係がしっかりとしていないから自分の周りに手がかりが無いし、希薄になっていてすごく不自然な状態だと思う。

退任後にしたいことを教えてください。

海外には、まだ行ってみたい所が沢山あるけども、実はまだ日本の中をあまり見てなくて、出来れば日本をしっかりと見て回りたい。特に地方を。そこで地元の人とちゃんと話をしてみたい。それと、庵について研究してみたい。例えば日本でいう方丈記のようなもの。世の中をドロップアウトして生活する場所を作る。もともと中国に仙人みたいな伝統があって、そういう文化が伝わったのか似たようなものが日本にもある。彼らがそれぞれの時代でどういうスタンスでそういった生き方を選んで何をしたのかっていうことを調べてみたい。方丈記は短くて薄いけど、今でも日本人みんな読んで知っている。それだけの影響が日本人にあった。

学生へのメッセージをお願いします。

まず、みんな理科大のことしか知らない。建築の教育も理科大でしか受けてないから、他の大学でどんな教育をしているか分からないよね。もっとよその大学と交流した方が良い。同じ理科大生でも研究室が決まると、自分の所が大事みたいな。それはおかしい。みんなもっと交流して、他の人の良い所をどんどん盗めば良い。それに君たちはまだ見ている世界が狭いから、いろんな経験をした方が良いと思う。そうすることで自分の価値観を鍛えて、見方を広げる。世界はもっと広いし、その中でチャンスは自分で掴まないといけないから。そういう意味で、２０代のうちに色んな体験をして、自分の本当にやりたいことを探すことを薦めるね。探しつつも、もちろん自分のスキルを上げるとか経験を積んでいくと、それは全部財産になる。そういうつもりで世の中動きまくるっていう感じかな。一番感性が豊かな時期に吸収した方が人間としての幅も広がるし、若いうちの方が、頭が柔らかくて、世の中感動する余地が大きいってこと。

Short Interview

中畑昌之
Masayuki Nakahata

丹羽助教が育児休暇中のため、建築家で東京理科大学非常勤講師の中畑昌之氏に研究室活動の一部にご協力いただいています。頼れる兄貴的存在の中畑氏にお話を伺いました。

自己紹介をお願いします。

産休中の丹羽さんに代わって伊藤研究室のお手伝いを 2013 年 9 月よりしています。（2014 年 3 月まで）私は理科大理工建築の出身で、理科大大学院を修了後、ロンドン大学バートレット校に留学しました。そして帰国後、理科大の奥田研究室の助教を 3 年間務めていたので、運河は学生時代から数えると通算 10 年以上通っているホームのような環境です。

現在携わっている活動について教えてください。

現在は、建築設計事務所を共同で主宰していて、集合住宅・戸建住宅・オフィスビル・インテリアなどを設計しています。今は、ほとんどのすべての建物をクライアントの方から依頼を受けて設計しているのですが、今後はそればかりではなく、自分の故郷も含めて様々な場所に自ら積極的に入っていって、この場所で何が可能なのか？という設計のもっと根源の部分に関わるようなところから建築を考えていきたいと思っています。そういう意味では、伊藤研究室の活動内容にはとても関心があります。時間を見つけては、研究室の都市関係の書籍を読み漁っているところです。

伊藤研究室の印象はどうでしたか？

伊藤研究室は、学生も含めて雰囲気がとても柔らかいなあと思います。自分が学生時代、助教時代と過ごした研究室はどこか男子校のような雰囲気（匂いというべきか）が充満していましたので、ある意味とても新鮮です。先生が女性ということも大きな要因かもしれません。しかし、活動はとてもパワフルだと思います。先生が最もパワフルですが、学生達もそれにつられて、躊躇無く遠いところへ調査やワークショップに出かけていき、他流試合をしてきます。そんな様子を見ていると、お手伝いしているというよりは、自分自身いつも刺激を受けています。

Individual Activities

はすだ2033プロジェクト

M2　星洸祐

今夏、市議会議員と私が発起人となり市民参加プロジェクトを行った。kNt*によって運営された4回のワークショップには、総勢141人の市民が参加し、公共建築についての問題意識や視座の共有からスタートした。ミッションは、ここ**に将来的に残すべき公共建築についてのオープンプロセスを経た合意形成をシミュレーションすることである。蓮田市***は郊外地域における典型的な諸問題を抱える一方で、公共施設延床面積****は同規模の自治体と比べ最低水準にある。従って、計画が長らく滞っている敷地での新規事業を想定して、有限のリソースを編集することが求められた。尚、このプロジェクトの理念は新組織"HASTUDIO"に継承され、私はアドバイザーとして今後も関わることになっている。

*他大学や伊藤研究室の学生らによって構成された有志団体 **JR蓮田駅西口側にある8600㎡の空地 ***住宅地を中心として埼玉県中東部に位置する ****1.78(㎡/人):財政状況の公表(平成22年埼玉県告示第1521号)より

NISHIGUCHI PARK PROJECT×MAD City

M2　堀口裕

千葉県松戸市に、密かなホットスポット「MAD City」があります。MAD City は主に松戸駅西口側一体を円く囲んだ、半径 500m の仮想自治区です。まちづくり会社が国内外の様々なアーティストやクリエイターと協力し、実際の都市空間 MAD City において地元住民をまきこんだ企画を多数行っています。「NISHIGUCHI PARK PROJECT Vol.1」はその活動の一環として、地元住民や私のような来街者、アーティストで結成された「松戸まちづくり会議」というチームのプロジェクトとして行いました。このプロジェクトは、MAD City にある西口公園という実際に改修計画のある公園の使い方を実験し、常識にとらわれないここだけのあり方、姿や風景を新しい公園に創るための活動をしています。Vol.1 に引き続き現在 Vol.2 を企画中です。

shadow garden

M2 藤井田仁

現在「sLiNky」という設計事務所を共同主宰しており、古民家を改装してビアガーデン空間を作る設計をしています。2014 年 5 月に竣工を予定しています。本計画のコンセプトは、時間の変化に沿ってゆっくりと変化する影を感じる空間です。庭を囲う様に建てられた塀や家屋の外壁を半透明の黒で塗る事で、庭での賑わいや影の変化、風景の変化を活性化させます。また、古びた家屋や塀は黒い漆器の様に古さを生かしながら新しく生まれ変わります。庭には、一つの大きな自由な屋根をつくります。運営者は、その屋根にパラソルや懐中電灯などを自由に吊るし屋根をレイアウトして使います。自由な屋根が作る多様な影が多彩な庭をつくります。この様に計画する事で、賑わいと寛ぎを一日を通して味わうことが出来る場所として機能する事を想定しています。

研究発表

「街路空間のユニバーサルアクセシビリティ：移動制約者の行動調査を通して」
渡邊諒，伊藤香織，丹羽由佳理 , 日本建築学会学術講演梗概集，都市計画，pp.219-220，2013.8

「フリーマーケットにみる一時的な空間形成」
矢萩智，吉田恵子，髙橋真有，伊藤香織 , 丹羽由佳理，日本建築学会学術講演梗概集，都市計画，pp.385-386，2013.8

「東京中心部におけるバス路線網の変遷からみた公共交通機関としてのバスの位置づけ」
大矢遼太，伊藤香織，丹羽由佳理 , 日本建築学会学術講演梗概集，都市計画，pp.1031-1032，2013.8

「路線網の変遷からみた公共交通機関としてのバスの位置づけ：東京中心部の都営バス路線に着目して」
大矢遼太 , 竹中翔 , 岡本薫子 , 伊藤香織 , 丹羽由佳里 ,CSIS DAYS 2013 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会，P.50，2013.11

「首都圏における震災時帰宅立ち寄り行動の実証研究：東日本大震災に関する web アンケート調査に基づく分析」
伊藤香織・青野 貞康・大森 宣暁，都市計画論文集，no.48-3，pp.873-878，2013.11

"A Study on Planning Rules Embedded in Informal Settlements: A Case of Urban Kampung, Cikini-Ampiun, Jakarta"
Shima, N. and Ito, K.,The 12th International Congress of Asian Planning Schools Association, 2013.11

"How People Find Their Way Back Home during a Natural Disaster"
Ito, K., Ohmori, N., Aono, S. and Niwa, Y, The 26th International Cartographic Conference Proceedings, 2013.8

"Observations of Going-home Behavior in the Greater Tokyo Metropolitan Area after a Major Earthquake"
Ito, K., Aono, S., Ohmori, N., Niwa, Y., Kawama, M. and Kawamata, C,
Association of American Geographers 2013 Annual Meeting Abstracts (DVD), 2013.4

Thesis & Design

2012 年度（通年）卒業論文

東日本大震災時の首都圏における帰宅時
立ち寄り行動
ー立ち寄りパターンとサービスのニーズの分析ー
川満まり子　川又千佳

東京中心部におけるバス路線網の変遷からみた
公共交通機関としてのバスの位置づけ
大矢遼太　岡本薫子　竹中翔

2013 年度（半期）卒業論文

廃校の発生要因と利活用状況に関する研究
ー東京 23 区の公立小学校を対象としてー
神田夏子　宮本沙生

原宿・表参道エリアにおける街路特性に
みるグラフィティの連続性
小田健人　笠原遼太　風間仁嗣　草谷悠介

2012 年度 修士論文

三陸沿岸地域における漁村集落空間の変遷ー宮城県気仙沼市唐桑町鮪立の事例ー
石橋理志

大規模開発駅及び隣接する住商混合集積地帯における居住者の生活行動ー名古屋駅西側を事例としてー
伊藤槙吾

住民が街に抱く愛着及び誇りの構成と表れー共分散構造分析による街の比較ー
川上那華

色彩と構成要素による駅前景観の比較ー西武池袋線を対象にー
関口由佳

都市内カンポンにおけるインフォーマル建築ルールージャカルタ首都特別州チキニアンピウンの事例ー
吉本浩卓

2012 年度 卒業設計

Raison d’ etre
大谷唯子

光の鍵盤
矢萩智

３つのスケール
澤野圭司

とける
吉田恵子

みんなの場所
髙橋真有

積層住宅街
渡邊諒

2012 年度 修士設計

存在する建築
石黒泰司

空気と光の交差ー連続する軸で支え合う形態ー
大久保遼一

mallization
ー自閉する”場 / 建築 / 空間”への抜け路の挿入ー
小野田龍

都市のエクリチュール
鎌田健太郎

Architecture in Kampong
古川正敏

渡邊諒

古川正敏

石黒泰司